

常務理事就任あいさつ



常務理事兼
中山の園所長
佐々木和哉

本年4月に当事業団の常務理事兼中山の園所長に就任いたしました。

私は、県職員として約33年間勤務し、特に保健福祉分野を長く経験しました。業務を通じて当事業団との関わりは深く、平成9年度に当時事業団に運営委託していた旧県立障がい児者施設の担当となったのを皮切りに、現在も続く補助金や委託事業等に携わったほか、令和3年度からは派遣職員として視聴覚障がい者情報センター及び療育センターの運営に直接参画しました。

これらの経験から感じたのは、県がいわて県民計画や障がい者プラン等に掲げる様々な目標の実現や課題解決のためには、県出資法人である当事業団が県に代わって業務を担うだけに留まらず、障がいや児童福祉の専門機関として、本県の福祉向上を牽引していく役割が期待されているということです。職員一人ひとりが常に「岩手県社会福祉事業団」という看板を背負っているという誇りと責任を自覚し、真摯な姿勢で業務に当たっていきましょう。

老朽化が進む中山の園は、今年度いよいよ整備基本計画の策定に入ります。将来にわたって利用者が安心安全に過ごし、適切なサービスが提供できる施設づくりに向け、これまで培った経験を活かし取り組んでまいります。

4月に常務理事兼事務局長に就任いたしました藤澤良志と申します。

私は、本年3月に岩手県を退職し、4月から当事業団にお世話になっております。これまで県職員として、農林、商工等の産業分野、職員採用、法規審査のほか、教育分野などを経験してきました。

福祉分野の経験はありませんが、就任早々、各地の施設を訪問し、施設長さんから事業の概要、現状や課題について伺い、また、若手職員から日々の業務の中で、より良いサービス提供のあり方を模索する様子などをお聞きする機会もあって、事業団の果たす役割の大きさと職員の皆さんの熱意を改めて感じたところです。

さて、当事業団は、高い経営理念を掲げ、障がい者福祉や児童福祉等の多様な事業を通じて、長年にわたり本県の福祉をけん引してきましたが、こうした取組を継続していくためには、安定した経営基盤の確立と携わる人材の確保・育成が何より重要と考えております。

少子化や高齢化など社会情勢が変化する中で、求められるニーズは、多様化、複雑化していますが、一層の経営改善や働きやすい環境の整備に努め、皆さんが誇りとやりがいをもって仕事にあたり、本県の福祉の向上に貢献できるよう、一緒に取り組んでいきたいと考えております。



常務理事兼
事務局長
藤澤 良志